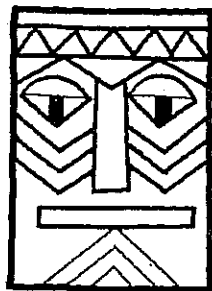
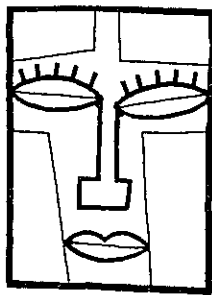


緑のまちあれこれ

- 今年も酷暑だったが、秋は早く来たようだ。ヒガンバナがいつもより早く咲いて早く枯れた。昼間は未だ暑い日もあるが、朝晩は気温が下がる。温度差が大きいから体調を崩しやすい。そして御嶽山の噴火。噴石と火山灰で多くの死傷者が出た。
- 通学路をはじめ生活道路の問題で国交省と市川市への質問会があり、要望書を出した。いくつかの成果があったとは思いますがこれからも話し合いの機会をつくりたい。外環工事の本体は菅野へと移り、小塚山トンネルや道免き谷津の工事はあまり進んではいないようだ。
- かつての勤労感謝の日も敬老の日も、今は単なる休日のひとつになっている。春秋の彼岸は休日だが、お盆や終戦の日は祭日にはなっていない。海の日や山の日が新しくつくられた。これは休日を増やすための国会議員の選挙の集票をねらった立法休日なのだろうか。
- 千葉銀行の矢切支店が下矢切に移転した。以前に千葉銀の前にあったスーパーのマルエツは千葉銀が移る前に下矢切に移っていた。人の流れが変わってしまったということなのだろうか。北総鉄道と外環で、松戸街道の景観にこれからも変化が出ることになるだろう。



■ 編集後記 ■ これまで長らく掲載いただいた「野の花」シリーズが今号で終了することになりました。ご執筆の谷口浩之さん本当に有難うございました。「緑のまち」をひっくり返し、いつから連載をお願いしていたのか調べてみましたところ、第84号(2008年1月)「小塚山のキンラン」からでした。7年間、28回ということになります。誠にご苦労様でした。厚くお礼申し上げます。

緑のまち

—北国分だより—

第111号 2014.10.20 発行



編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-12 越田方
Tel 047-372-8936
www.midorinomachi.net

第44回北国分外環対策協議会総会 報告

8月2日、小塚山研修所で第44回総会が開かれました。当日は猛暑の中、日頃外環運動に協力している方々が参加して、一年間の活動報告・会計報告、事務局の体制、これからの活動などについて話し合いました。

活動報告について

- 7月15日に行われた住民主催の「質問する会」(首都国道事務所と市川市が話し合いに参加)は、とても有意義であった(参加者からの声)。「質問する会」の詳細は本紙に掲載されています。

事務局について

- 今年度から、会の会計を菅野順子さん(2丁目)が担当されることになりました。共同代表は引き続き越田常義さん・佐々木陽子さんです。よろしくおねがいします。

今年度の活動について

- 外環に関する情報や地域のいろいろな事柄をお知らせしている会報「緑のまち」発行。(年4回、10月・1月・4月・7月)編集長 西畑健一さん。
- 小塚山からじゅんさい池まで野鳥を探しながら自然に触れるバードウォッチング。(年3回、11月・2月・4月)案内人 村岡幸生さん。
- 野草を観る会 〈春〉案内人 未定

森の音楽会について

「小塚山の自然を外環から守ろう」と二十数年前から毎年5月に開催している森の音楽会、今年は晴天にもかかわらず研修所での室内演奏会となりました。

国内では数少なくなっている野鳥が小塚山で営巣し、産卵し、雛を孵す時期であるという情報が入りました。「種の保存法」により「稀少野生動植物」に指定された野鳥は、保護

対象になっているそうです。森の中で大勢の人々が集まったの音楽会は、鳥に悪い影響を与える可能性があるとのこと。来年以降も数年は同じ場所に営巣すると聞き、これらの音楽会をどうするか、話し合いました。

- ・ 野鳥を守ることも大切だが、森の音楽会を楽しみにしている地域の人たちも大切ではないか。
- ・ 森の音楽会は森でやるから素晴らしい。
- ・ コーラスやアンクルンの演奏まで中止になり、残念に思う。
- ・ 森を守ることは森の生きものを守ること。人と自然との共生について村岡さんにお聞きしたい。

○ 話し合いのまとめ

野鳥が巣立った秋ならば音楽会が可能かどうか。一年間、森の自然を観察することにしました。来年は休止して各自熟慮し、次年度の総会で再度話し合うことで一致しました。

外環対策協議会が発足して、44年、外環建設によりまちは大きく変貌しました。地域住民にとって大切な生活道路は閉鎖され、生活に大きな支障が出ています。これからは今まで以上に騒音や大気汚染、交通事故などが心配です。私たちのまちを住みよいまちにするために、みんなで力をあわせてまいりましょう。



「外環道路工事に関する質問会」の報告

7月15日、松戸の外環相談所で、「外環工事に関する質問会」を行いました。首都圏道事務所から3名、市川市から1名出席で、北国分住民（出席者11名）との話し合いをしました。私たちが一番困っていることは、生活道路がなくなったことです。「老人いこいの家や保育園、矢切駅などへ行くのに大変不便になってしまった」と、参加者の多く人が訴えました。「代わりに道をすぐ造ってほしい」との声に対して「近くに歩道橋を造る計画になっているが、完成するのは外環道路が完成する1年前になる。それまでは造れない」との返答。通学路でもある切り回し道路に関して、「幅も狭く、広げて安全な道にしてほしい。（徐行）（速度制限）などの標識を設置してほしい」（これは実現しました）など「要望書」として提出しました。これからもこのような話し合いを続けて、北国分を少しでも住みよいまちにしていければと思います。

楽しいバードウォッチング

村岡 幸生

小塚山からじゅんさい池までを、ゆっくり歩きながら野鳥を観察して楽しむバードウォッチングの集い（探鳥会）を、北国分外環対策協議会主催、私が案内人として始めたのは、1997年11月24日のことでした。目的は、素晴らしい里山の自然環境が東京外環道建設のために破壊されてしまうのをなんとか止めたいとの気持ちからでした。観察を始めて3年ほどで、約70種の野鳥を確認したのも、小塚山が渡り鳥のコースになっているからでした。しかし、外環道の調査・建設が始まるとたんに野鳥は激減し、明らかに工事が影響したことはわかっていますが、その生態系の因果関係が明示できず、環境基準も人を対象としたもので、野鳥・小動物・虫・植物に対する基準はなく、対抗要件にはならず、無力感に陥ったこともありました。

しかし「継続は力なり」を信じ、また、参加下さる大勢の人たちの後押しで、年3回ずつ、今日に至るまで続けることができました。野鳥の繁殖、植物に関しても、気付いたことは、工事事務所へ行き配慮を要請したことが何度かあり、日頃集まって活動していたことが力となり、工事事務所もそれなりの対応をしてくれたので効果はあったと思っています。

トンネル工事が終わった頃から小塚山を仕切っているフェンスの工事側は、人が立ち入らないためか、野鳥の生息も次第に戻りつつあり、今年はなんと希少種の鳥の繁殖を確認しました。しかしフェンスの外側は、近年市民ボランティアの人たちが「林を明るく」を目的に、中低木を伐り、林辺のマント群を取り除き、木は枝打ちをしてしまいました。市川市の職員も一緒に活動し、尋ねると、市の意向とのことでした。それにより林は明るくなりましたが、鳥はもちろん虫もいなくなり、植物の種類も少なくなりました。いまや小塚山の里山としての生態系と生物の多様性は外環工事頼みの皮肉な結果になってしまいました。これも一時のこと、外環道が完成すれば、小塚山は計画通りに開発されてしまいます。

私たちは可能な限り小塚山の里山としての生態系の維持を求め、みなでバードウォッチングを通して保護活動を続けたいと思います。この集いの趣旨をご理解頂いている方もおられますが、理屈抜きで、おもしろい、楽しいからと参加される方も多くおられます。だからこそ、17年間も楽しく続けられたと感謝しております。

人は、あらゆる生物の助けにより、生存できるものであり、それを実感するのもバードウォッチングの素晴らしいところです。是非、お気軽にご参加ください。

□バードウォッチング 日程□

平成 26年 11月 30日 (日)

27年 2月 8日 (日)

27年 4月 29日 (休)

(雨天中止)

集 合 小塚山あずまや 10時

解 散 じゅんさい池公園 12時

(案内人) 村岡幸生さん (日本野鳥の会会員)

どうぞお気軽にお出かけください

(連絡先) 越田 (372) 8939



用意するものは、筆記用具、双眼鏡 (もしあれば、特に必要ありません)
靴はスニーカーかトレッキングが良いと思います。



市川という地名

「市川」という地名は全国に分布していて、そのほとんどが国府にからんでいることが多い。下総の国府が国府台 (今のスポーツセンター付近) にあったことはご存知のとおりである。調べてみたら青森県八戸市、宮城県多賀城市、福島県会津高田町、茨城県千代田村、石川県金沢市、長野県野沢温泉村、愛知県新城市、兵庫県市川町、広島県安佐北区、佐賀県富士町、大分県市川町などにあり、山梨県には山梨市に市川の地名があるが、市川大門町の方が知られている。千葉県には市川市のほかに君津市にもあり、こちらは上総の国府と関わる。文献には、市川は中世、南北朝期から見られ、延文3年5月の「弘法寺文書」に市河村の僧俗が弘法寺の講会に勤仕すべきことが記されているのが最も古い。国府の市場に由来するとされ、市川は江戸川に臨み、房総半島と関東内陸交通の要衝で、戦国期の連歌師、宗長の紀行文「東路の津登」にも市川のわたしとして記述されている。ちなみに、北国分は国分の出耕地で、江戸時代には国分新田とよばれていた。最近では旧北国分町が堀之内に地名変更された。(K)

このだい九条の会 秋の文化展のお知らせ

第6回「秋の文化展」を2年ぶりに開催します。

7月1日、安倍首相は国民多数の声を無視して集団的自衛権行使容認の閣議決定を強行しました。これは「憲法九条のもとでは、海外での武力行使は許されない」としてきた従来の政府見解を覆し、日本を「海外で戦争する国」にするものです。若者たちが戦争に駆出され、敵とお互いに殺し殺される国になるということです。同時に平和な日常生活も文化も、かつての戦前・戦時中のように封じ込められていくことでしょう。

「このだい九条の会」は「壊すな！憲法」「NO！戦争する国」を合言葉に行動しています。文化展は会の趣旨に賛同された方々の作品 (絵画、写真、書道、手芸、陶芸、俳句、絵手紙など) を展示し、平和と九条の大切さを守る輪を広げていきたいと願っています。

「緑のまち」をご覧のみなさまにも、是非多くの作品の出品をお願いします。締切は11月18日 (火) です。下記までご連絡ください。そして是非、お気軽にお出かけください。

日 時 : 11月27日 (木) ~ 12月1日 (月)

平日 13時~16時

土・日 10時~16時

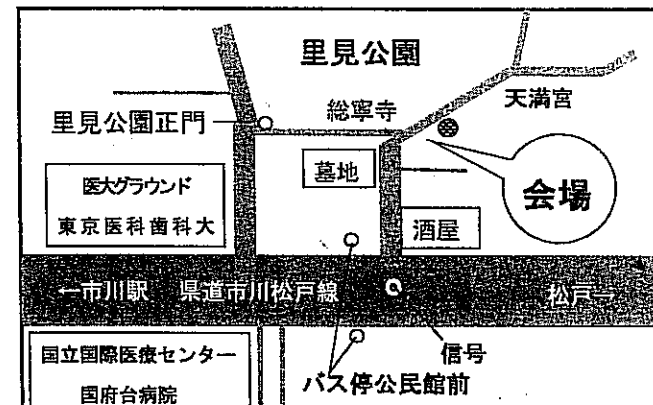
(最終日は14時30分)

会 場 : SPACE SONO (スペース その)

市川市国府台 3-11-9

駐車場はありません 公民館前バス停より徒歩8分

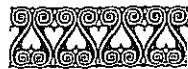
出展などお問合せ先 松林 (375-2925)



アキニレの木陰で

— 長崎を訪ねて —

中山 路子



孫に会いたくて長崎へ行った翌日、念願だった平和公園を訪ねた。

長いエスカレーターを乗り継いで、公園に立った。ブロッコリーを思わせる豊富な木々が、この地をすっぽりと包んでいる。

青い空だ。ひとひらの雲もない。その天空に届けとばかりに上がる幾筋もの噴水。ブリリアンカットの水晶の輝きにも似て、初夏の光を砕く。

水！

水を下さい！

溶けてゆく火の塊です

ひとすくいの水をくれませんか

いのちの糸をつなぎとめてください、誰か！

毎年上演される地人会の朗読劇『この子たちの夏』の、被爆者の詩の一節が、私の脳裏をよぎる。

遙か前方に、平和像が見える。

尖った鼻の体格のいい一団が過ぎる。隣の国の集団が賑やかに行く。修学旅行の生徒たちが平和像を背景にして集合写真を撮っては次々に交代している。

像の下にある方形の池は、満々と水をたたえる。献花をする人、水を捧げる人たち。同じようなバッグを肩から下げた四人連れの少女たちが、細い、白いうなじを見せて合掌している。

日差しが強い。点在するアキニレの木立は、大きな緑の日傘だ。その下には幹を中心に、樹冠とほぼ同じ大きさにドーナツ型の木のベンチがぐるっと回してある。つとめて背筋を伸ばしてきた身体を休め、手持ちの魔法瓶の氷水で濡れた喉を潤した。

十数年前、地域の朗読ボランティアの一員として、専門家の指導を受けながら、『この子たちの夏』を、市川市文化会館や中学校、教会などで上演したが、それより以前にこの地を訪ねていたなら、もっと違った読み方ができていたかもしれないと考えた。

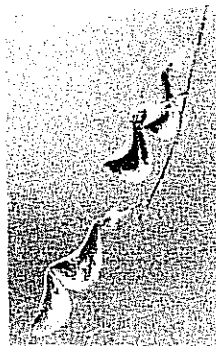
風が動いて、アキニレの細かな葉がそよいでいる。

ひつつき虫…秋の実

谷口 浩之

今年は、夏の暑さが足早に過ぎ、初秋の風が例年より早くそよぎ始めました。そのせいでしょうか、ヒガンバナなど秋の花も早めに咲き始めたようです。昨年の10月上旬に大町の長田谷津で咲き残っていたカリガネソウを見つけました。今年は9月中にと思ってお彼岸に行ってみたところ出会うことができました。一年待った甲斐があり、雁が飛んでいく姿に見立てた青紫色の花を写真におさめることができました。

離れた所に夏咲いていたヌスビトハギの淡紅色の花は、すっかり果実になっていました。「ヌスビト=盗人」とは物騒な名が付いていますが、マメ科で「さや」ができます。写真のように、半月状のそのさやが2個並んでいて種子が1つずつ入っている姿が、ヌキ足、サシ足、シノビ足で仕事をする泥棒の足跡と似ているところから付いたようです。そう言われれば、見えなくもないのですが、サングラスのようにも見えます。そのさやに細かい毛が生えています。その毛はざらざらしている。それがそばを通る人の衣服や生きものについて運ばれ、落ちて仲間を増やします。いわゆる「ひつつき虫」です。盗人のように「人知れず仕事をする」のでヌスビトハギ。おもしろい。



ひつつき虫と言えばオナモミでしょう。ラグビーのボールのような実のまわりにびっしりとトゲが。子どものころ、友だちの衣服に投げつけ、くっつけて遊んだものでした。特にセーターを着た子は集中的に狙われました。

庭に出てきているイノコズチは、2本のカギのような毛によってひっかかります。はがすのが大変。

生きものは種族保存のため、並々ならない工夫をしていることがわかります。神様は私たちに想像もつかない営みを創りだされたものです。滅んでしまった生物は、もう二度と見ることはできません。この欄で取り上げた花々の中には“緑のまち”北国分で見ることが叶わなくなってしまったものがいくつかあります。

道免き谷津では、虫もいたという自然環境を壊して外環道が工事中です。自然との共生を本気で考えていく必要があります。

【お礼】 長いこと、“緑のまち”野の花をご愛読くださりましてありがとうございました。散歩カメラマンのつたない駄文にお付き合い頂き感謝いたします。今回で終了させて頂きます。(谷口)